

敷きたる紙に、瓜のごとく血の付たるゆへに、此家のもんに定る也。

〔寛永諸家系圖傳 百五十九〕稻富

家の紋稻に鳴子、

〔寛永諸家系圖傳 二百七十二〕内田

家紋九の内に稻三本雀三、

〔寛永諸家系圖傳 二百八十四〕大岡

家紋三本稻、

〔鹽尻六〕三州鈴木氏紋ノコト 三州鈴木氏は、鈴木三郎重家が伯父の僧善阿彌陀佛、三州加茂郡

高橋庄矢並郷に住せしより、代々矢並村庄一木等に住せり、其裔移りて酒吞村に居せり、文明年

中、鈴木與六郎某法名淨本、酒吞村に住すと云々、

始善阿彌陀、矢並郷に有りし時、同庄猿投山に神宮寺を立て、あみだの像を安置す、今に傳へて

善阿の忌を修す、善阿の子孫は、信濃宮方なりし、姓は穂積、紋は拔穂なり、鈴と幣帛とは、彼家の

馬印なりしとかや、

〔諸家系圖纂 四十一〕上杉系圖

家紋 天月 二本大根 八藤 菊 桐

〔佐竹系圖〕家紋 隆義迄ハ白旗也、秀義之時、從賴朝始而賜此紋也、

〔吾妻鏡九〕文治五年七月十九日丁丑、巳刻二品頼朝源為征伐奥州、泰衡發向給、廿六日甲申、令立

宇都宮給之處、佐竹四郎、自常陸國追參加、而佐竹所令持之旗、無文白旗也、二品令答之給、與御旗

不可等之故也、仍賜御扇、出月於佐竹、可付旗上之由、被仰、佐竹隨御旨付之云云、

〔諸家系圖纂 三十六〕桓武平氏 佐治系圖 平姓、紋、軍扇

以器物爲紋